

若浜の子ども



令和3年9月7日 第5号

**制限の中で できることを考え
知恵の力で 盛り上げよう！**

☆☆ かがやけ若っ子大運動会



今年度の運動会は、昨年度に引き続き、コロナ禍の中行うため、様々な制限があります。その中で最も困ったのは、応援は声を出さずに行うということでした。「6年生の活躍の場である応援団が、これでは、がんばりようがない。」と思いました。

しかし、5・6年生の実行委員たちが、緊急対策会議を開き、応援の声は応援団が事前に録音しておいて、当日テントの中では声を出さずにスピーカーから出してはどうかというアイデアを出してくれました。また、これだけでは盛り上がらないので、ペットボトルにビーズまたはBB弾を入れて応援団が振付に合わせて音を出すということを考えてくれました。

難しい局面の中、何とか打開策を見つけようと、知恵を絞ることは、これからの変化の激しい社会を生きる人間に求められている資質の一つです。また、そのような資質を育むためには、大人が先回りしてつまずかないように、石ころを拾って歩ませるよりも、子どもが石につまずき転んでも、自らの力で立ち上がって歩むたくましさを育てる、「待ちの姿勢」を私たち大人が持つ必要があると思います。

今回素晴らしい発想を生み出した若っ子に、当日天気も味方してくれることを祈っています。

昭和の親子の風景（学校文集から）

今年度創立50周年ということで、これまでの学校文集全31冊読破を私の夏休みの宿題にしました。子どもの生活が生き生きと描かれている作文が多く、読んでいて飽きませんでした。そんな中から昭和53年度の1年生の男の子の作文を紹介します。

おいしい

「えーん、えーん。」

ともだちを なかせたのは、きょうで 3かい目、

「また、ともだちを なかせて。おいしいで かんがえなさい。」

おかあさんは、ぼくの せなかをつかみました。そして、おいしいに入れました。

おいしいの中は まっくらで、ゆうれいが 出そうでおっかなかったので、ぼくは なきながら、「だして、だして。」と、おいしいの とを ドシンバタン、ドシンバタンと たたいた。こんな 音だから、おいしいの とが、はずれそうになった。おかあさんは、とを しっかりおさえていました。

しばらくすると、ドシンバタンと いていた音は、おさまりました。ぼくは、あきらめておとなしく していました。

また、しばらくすると、おかあさんが、

「こんど、ともだちを なかせねが。」と いったので、

「はい。」と こたえました。

「したば、ともだちの いさ いて、あやまて きなさい。」と、いって、おいしいからだして くれました。

ゆっくりして、おかあさんの かおを見たら、目に なみだが いっぱい あふれていました。ぼくは びっくりして、

「どうして おかあさん ないてるの。」とききました。おかあさんは、

「ちがうの。ないてるんじゃないの。たまねぎを むいて いたら、なみだが 出て きたの。」と いうて、なみだを ふきました。

ぼくは、たまねぎに むかって いいました。

「こらっ、たまねぎ。おかあさんを なかせていいの。おいしいで かんがえなさい。」

ぼくは そう いうて、たまねぎをつかみ、たまねぎを おいしいに いれました。

おかあさんは、にこにこ わらって いました。



※ お母さんの涙についてお子さんに問いかけたら、どう答えてくれるでしょうか？

JRCリーダーシップ研修会

夏休み中の7月31日（土）新庄市で開催された青少年赤十字のリーダーシップ研修会（JRCトレセン）に、6年生の高橋亮太君、佐藤杏夏さん、5年生の池田柚稀さん、佐藤快さんの4名が参加してきました。この研修会の目的はJRCの行動理念「気づき、考え、実行する」の実践推進役の育成です。今回はコロナ禍を克服するためのかるたづくりを通じて、人を啓発する方法を学んできました。

お互いを 信頼し
不幸を少しでもなくしよう
6年 佐藤杏夏

コロナから 身を守ろう
ワクワクで
6年 高橋亮太

気づくか まずは
自分を見つめて 深呼吸
5年 池田柚稀

きよりをどう
となりの人と ニメートル
5年 佐藤快

すべり台付きジャングルジム大盛況

創立50周年記念事業の遊具が完成し、9月2日（木）に竣工式を行いました。これまで教育後援会にご寄付いただいたお金を積み立てて、総工費144万円をかけて完成しました。地域の皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

この滑り台は、ジャングルジムを上ってから滑り降り降る仕組みになっています。このことから期待しているのは次の2点です。

- 1 全国的に低下している児童の握力（若浜も例外ではありません。）の向上。
- 2 滑る前に順番を待ったり、譲ったりして折り合いをつけながら遊ぶ態度の育成。

使用解禁の9月3日（金）には、低学年を中心に多くの子どもが使いましたが、誰一人として泣いている子はいませんでした。言葉で仲良くすることを指導するより実際の場面で、体験的に学ぶことの方が効果的です。



若っ子のがんばり



○ 第37回山形県小学生陸上競技大会

男子走高跳 第4位 6年 高橋希晏（若浜卓球スポ少）

男女混合4×100m 第7位 6年 鈴木瑛士（SRK ジュニアクラブ）

○ 第49回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部野球大会

第3位 CJヤンキース

○ 山形県少年少女交流大会柔道競技酒田地区予選会

第1位 6年 高橋亮太

○ 令和3年度第36回ホープス卓球選手権大会

敢闘賞 6年 高橋希晏

○ 山形県選抜学童水泳記録会

小5～小6女子100m平泳ぎ 第4位 佐藤千波菜

小5～小6女子200m個人メドレー 第1位 石橋由菜

小3～小4女子50m背泳ぎ 第4位 田村彩音

小3～小4女子50m平泳ぎ 第6位 鈴木亜花璃

○ 第52回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部卓球大会

女子団体 第1位 若浜卓球スポーツ少年団

男子団体 第3位 若浜卓球スポーツ少年団

カブ女子シングルス 第3位 2年 五十嵐杏奈

カブ男子新人シングルス 第3位 4年 鈴木 悠月

○ 第52回酒田市・遊佐町スポーツ少年団本部卓球大会

入選 6年 佐藤百華 5年 三川幹人

5年 八鍬瑞樹 中川礼菜